B 6　教師の性役割意識

島根大教育　猪野郁子

目的　「男らしさ・女らしさ」あるいは性役割は，まわりの大人達からどのように扱われてきたかということから取得されることは明らかである。中でも，第二次性徴をむかえる中学生時代から，肉体上の性の分化に加えて行動・心情面での性の分化が要求されることが多くなり，そこには教師の言動が大きく関与しているのではないかと考えられる。そこで，教師がどのような性役割観を持ち，最近のユニ・セックス化の現象をどうとらえているのかを明らかにしようとした。

方法　公立の中学校校長以下養護教諭・非常勤講師を含む257人を対象に，伝統的イメージと異なる男性・女性像への評価，学校内での生徒の行動・態度への意識，伊藤裕子による性役割尺度を質問紙によって求めた。調査は平成2年7月に行われた。

結果　1)男性教員は女性教員に比べて伝統的な性役割イメージと異なる男性・女性像には厳しい評価をしている。2)特に，家事・育児を拒否する女性や政治や議論に強い女性への評価は低い。3)学校場面でみられる態度・行動の中で男女教員が気になるものは「丸文字を書く，めそめそする，言葉づかい，教室外で遊ばない，いい大学にこだわる」等である。4)生徒の態度・行動全般について女性教員より男性教員の方が気にしている。5)男女教員とも男性役割として「人間性，男性性，女性性」の順に期待している。しかし，女性役割としては男性教員は「人間性，女性性，男性性」としているのに対し，女性教員は「人間性，男性性，女性性」の順に期待している。6)これらの結果は，教員の年齢，教育歴，担当教科，未既婚による差異はみられない。